



令和6年7月9日（火）

東彼杵中だより

文責：校長 正尾 敏

第15号

魅力ある学校づくり 「平和ワークショップ」開催



2日（火）の5・6校時に本校体育館におきまして、長崎県が企画する「平和に関する座学・ワークショップ」を開催しました。今年度、学校目標である「心豊かでたくましく、主体的に学ぶ生徒」の育成に向けて、情操教育や主体的な学びにつながればと社会科の教員が中心となって計画した授業です。当日は、「ピース・エデュケーション・ラボ・ナガサキ」の林田代表理事が本校を訪れ、前半は原爆投下後の出来事や核軍縮の現状をわかりやすく説明していただき、後半のワークショップでは核兵器とSDGs 17目標を関連付け、平和および核軍縮に向けて今、私たちにできることをグループごとに意見を出し合いました。林田さんの講義の中で印象的だったのは、「平和学習というと過去の歴史を学ぶことに視点が置かれがちであるが、今、現在戦争をしている国もあるので、核兵器は今の問題、私たちの問題である」という言葉でした。グループ協議の内容を一部発表してもらいましたが、子どもたちなりに、今、私たちができることを真剣に考えていました。右側に新聞記事を掲載しておきます。

長崎新聞 7月6日付11面に掲載されました



★生徒の感想文を紹介させていただきます★

平和についての学習は毎年行われているけど、今回は核兵器とSDGsを組み合わせでワークショップを行ったので、いろんな視点から考えることができたと思います。特に核兵器については爆弾が落とされた後の被害を多く学習したけど、開発や生産、保有など、製造する工程も段階ごとにわけて考えることができました。今も戦争が起こっている国があることや今いる人たちが社会をつくっていることから、核の問題は自分の問題であり、自分たちの今の問題だということを詳しく知るきっかけになりました。